

令和2年度 事業報告

令和2年度 事業報告書

令和2年度は年初からの新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的流行により、我が国に於いても4月7日には政府による緊急事態宣言が発出されるに至った。感染拡大予防策として入国制限や不要不急の外出自粛、マスクの着用、3密回避などコロナ禍での行動面での新しい生活様式がニューノーマルとして浸透するにつれ、人の流れが止まることによる経済面のマイナスは想像を絶するものとなった。政府は経済対策として雇用調整助成金の特例措置を講じたり持続化給付金等の給付を行いながらコロナの収束を見通しつつ、とりわけ成長産業と目されている観光産業の保護のための支援策としてGoToトラベルに代表されるGoToキャンペーンを7月から実施するも新たな感染拡大の波の到来によって1月には再度の緊急事態宣言が出されキャンペーンも一時停止となり今に至っている。

オリンピック・パラリンピックの開催に向けて上り調子であったインバウンドの2020暦年目標4000万人はCOVID-19の拡大により各国に於ける海外渡航制限や我が国の検疫強化、査証の無効化等の入国制限措置がとられたことから訪日外客数は激減し、結果は前年比87.1%減の411万5千9百人*と10年前の数値に遡ってしまった。一方、日本人の海外旅行者（アウトバウンド）数についても、前年比84.2%減の317万4千2百人*と43年前の数値となった。

（*出典 JNTO）

当協会としては新型コロナウイルス感染症が収束に至るまでの間は新しい生活様式の下、3密を避けるべく各委員会・分科会・部会の協会会議室での会議の参加人数を押さえつつ、1時間以内の会議とし、テレワーク中の会員も参加可能なweb会議を推進しながら日本の観光に役に立ち、観光関係団体や会員にも役立つ活動を行った。今年度からフェーズフリーの考え方を導入し、「日常時」と「非常時」の双方における観光施設の価値を向上できる可能性を追求した。

その成果を国際ホテル・レストラン・ショー2021（会場：東京ビッグサイト）での協会特設ブースにおいて、総合テーマを「ウィズコロナ時代のニューノーマル」と題して技術者集団ならではの展示をおこない協会活動を広く社会に広報した。

このように、多様な観光交流空間を視野に入れた領域の調査・研究・提言、評価に事業の幅を広げ、観光関係の公益社団法人として観光交流空間のハード分野の側面を担いつつ、わが国の観光業の発展に努めている。

令和2年度はこのような内容をもとにして公益社団法人として主に下記の活動を行った。

1. 技術委員会・各分科会の事業活動については、

- (1) エコ達人村から続いているエコ・小活動もコロナ禍で思ったように動けず、数か所の温泉旅館の現地調査によるCO₂の削減対策を提案した。
- (2) バリアフリー法改正に伴う宿泊施設の車椅子使用者対応の客室整備に対し、一般客室でも対応できる電動車椅子の改良版の提案に続き客室ドアの自動開閉システムの研究を進め、ホテルズ2021の会場で自動ドアの試作品モックアップを展示した。
- (3) データ利活用による宿泊施設（ハードウェア）旅館・ホテルがコンシェ

ルジュとなり観光型 Maas で施設、イベント、情報、人々を繋ぐオープンプラットフォームを「町じゅう旅館・町じゅうホテルプロジェクト」と名付けて調査活動・実証実験活動を開始し浅草の旅館における実証実験や、京都、長崎、十勝（北海道）など感度の高い自治体、法人との協業を模索した。

(4) コロナ禍での宿泊施設と旅についての研究としてワーケーションシンポジウムを開催

(5) 日本の伝統的な空間の意匠と工法、またその使われ方を宮城県塩竈市杉村惇美術館・公民館本町分室を調査分析し日本の伝統工芸・文化を見つめ直し、新しい方向性に向けて研究をおこなった。

(6) ホテル・旅館の耐震性を確保するために、SDG s と BCP の観点から研究を行った。

2. 技術委員会の活動で得られた観光交流空間に関する情報を技術の見地から外部出版社の発行する情報誌に観光施設メディアラボと題して継続して連載してきたものを新たに内容を編纂し「ホテル・旅館の安全・安心読本 2020」として6月に発刊した。
3. 広報委員会は、情報誌「観光施設」を年間4回発行、その内容の充実を図った。
ホームページの閲覧度を高めるべく、より効果的に情報伝達することに努め、広く観光界及び関連分野にむけて協会活動のPRを行った。
4. 事業委員会及び交流部会各部会においては、最新の観光施設に関連した内容をWebセミナーで会員ならびに一般に紹介した。
5. 委員会・分科会・部会活動の連携と調整を図るため、合同の会議：創造委員会を開催し、加えてフェーズフリーの考え方につき研究した。
6. 建築・設備・インテリアの3部会から成る「交流部会」を中心に、会員相互の情報交流をWebを活用して行った。
7. 第49回国際ホテル・レストラン・ショーについては、フード・ケータリングショーおよび厨房設備機器展と併せて3展合同開催を実施した。当協会としては、新たなテーマ『ウィズコロナ時代のニューノーマル』と銘打って6つのテーマ展示、①ワーケーション ②フェーズフリー ③町じゅう旅館・ホテル ④ウィズコロナ時代の設備 ⑤ウィズコロナ時代の建築 ⑥ウィズコロナ時代のインテリアの展示を初めての試みとして映像中心に行った。加えて特設会場でのホスピタリティデザインセミナーでは訪日外国人観光客を迎えるホテル・旅館のホスピタリティデザインに焦点を当て11枠の事例を取り上げて来場者の関心を集めた。
8. 総務委員会は、協会の活動内容を「協会だより」としてとりまとめ、会員に送付した。